

令和3年度

札幌大谷第二幼稚園 及び

認定こども園大谷オアシス保育園 学校評価

札幌大谷第二幼稚園が「学校関係者評価」に取り組み始めてから11年が経過し、この間、質の高い保育の実践を求めて評価項目や内容も「子ども第一」「家庭と園の連携を大切にしたい親支援（家庭教育支援）」が常に柱となっていた。

また、オアシス保育園が併設されて以降、両園園児に対する保育・教育活動は常に同じ願いと目標の元、両園教職員が協力し、時代や社会の要請に応え、それぞれの保護者の願いに応えながら、それぞれに幼児教育施設としての最良の成果を求めながら役割を果たしてきた。

評価委員会は昨年に引き続いて、合同の「学校評価」が、同一・共同の施設における管理・運営・安全対策ばかりでなく、特に3歳児以降の特色ある、しかも質の高い教育を希求する両園及び両園教職員にとって大きな意義を持つものになると確信して評価業務を受け、実施した。

1. テーマについて

当該園における学校評価は当初、想定される評価項目の総てを網羅的に行うものであったが、管理・運営・安全等の整備、対策に万全を期しながら、特色ある教育活動とその内容について評価を受け、改善を重ね、明日に育つ子どもたちの確かな基本育てに結び付けることに焦点化した取り組みを行ってきた。しかし、近年、改めて管理体制等にも評価の視点を広げ、令和3年度は『園の管理体制の見直しと家庭との連携』『食育活動』をテーマとして保育・教育活動が行われた。

2. 学校評価の手順等について

諸事情により園による自己評価と分析が遅れ、報告書の報告・公表が当初の予定より遅れたが、両園ともに別紙資料の通りである。

3. 令和3年度の学校評価重点目標と評価項目

両園とも別紙資料の通りである。

4. 点検結果と評価

評価は大谷第二幼稚園が保護者に対する35調査項目（回答98件）と16ページに及ぶ集計・分析、さらに教員に対する38調査項目（回答15件）と14ページに及ぶ集計・分析、認定こども園大谷オアシス保育園が保護者に対する38項目（回答49件）と集計・分析16ページ、教員に対する38項目（回答22件）と集計・分析14ページによって行われており

客観的で詳細な内容となっている。別紙資料の通り。

【評価】

I. 園の管理体制について、保護者から心配の指摘はないが、避難訓練や防犯について幼稚園教員の1割が不安な気持ちを持っている。また、子ども園教員においても地震・火災・不審者侵入時等の教職員の対応への不安が話題になっていたことも振り返り、これらに関する園内研修実施を課題としている。両園ともに自己評価「B」で、評価委員会もこれを受け、評価を「B」として改善を期待する。

II. 教職員の配慮について、多くの保護者が満足している。特に子ども園が十分満足している割合が高い。先生方の明るく熱心な指導や指導方法・内容について両園ともに評価されている。園の活動や子ども達の様子について、HP等による発信は一定の評価を得ているが、コロナ禍の相談や面談のあり方、感染対策とその発信等について、一部少数の保護者に不満があること、そしてコロナ禍下にあつての保護者とのコミュニケーション不足があつたとする教員の反省も踏まえ、両園の自己評価は「B」であるが、保護者による評価と、自分に厳しい教員自己評価を総合的に判断して、評価委員会の評価は「A」とする。

III. お子様の園生活について、「子どもたちが園生活を楽しんでいる」という実態は保護者からも、教員からも、両園ともに著しく評価が高く大変素晴らしい。コロナ禍にあつても何とか頑張り続けた両園教員の姿に、自己評価「A」であるが評価委員会の評価は「A+」である。

IV. 食育活動について、子ども園では保護者の食育への関心を引き出し、伸ばしてきたこと、また子どもへの日々の食育教育への成果から自己評価「A」である。幼稚園では栽培から食に至るまで、質の高い食育教育への取り組みが思いのほか子どもや保護者の関心につながっていなかった前年の反省に立った取り組み（資料のミニトマトの事例など）を行い、成果に結びついた。また、活動のHPによる発信の取り組みとその成果などから、自己評価も「A」である。評価委員会は今年度の食育活動の取り組みと成果を高く評価し「A+」とする。

V. その他

学園の理念や教育方針について、保護者には十分伝わっているが、教員の中に十分な理解が周知されていないようである。この点、パート教員も含めた園内研修の必要性を感じ、指摘しておきたい。 評価「B」

VI. 最後に

幼稚園の自己評価に書かれている、他園には例が少ない活発なPTA活動、サークル活動、これらは子どもたちの成長の視点からも意義深いものと考え、その意味からも園と保護者が一体となってこの存在を守り、発展させてほしい。また、子ども園の自己評価に書かれている、コロナ禍における行事の見直しが保育の質と内容の真摯な検討に結びついたことなどから、行事に追われない「遊びを通した楽しい保育」そして大谷第二幼稚園の伝統を引き継ぐ、五感を通した体験保育をさらに追及してもらいたい。

本評価は反省点も含め評価委員会による総合評価を「A」とする。

令和4年 6月 30日

評価委員長	平野 良明
評価委員	廣田 和久
評価委員	向 航平
評価委員	上新 佳代子